

素敵に今を生きる ～小さな声をチカラにかえて～

PART 1



相原クラブ 4役のみなさん

- 会長 森田さん
(写真:下段真ん中)
副会長 生田目さん (下段左)
波形さん (下段右)
幹事長 星さん (上段左)
会計 佐藤さん (上段右)



特集テーマは「地域のつながり」

令和の「今」を生きる人たちに焦点をあて、紹介する令和元年ひだまり特集の第2弾。

今回は「地域のつながり」をテーマにしてみました。少子高齢化が着実に進む中、コミュニティの力が弱まっているとも言われます。そのような中、地域の高齢化問題を自分たちで考え、行動しようと2017年に立ち上げた「相原クラブ」のみなさんにお話しを伺いました。

インタビューに答えてくださったのは森田会長、生田目副会長、波形副会長、星幹事長、佐藤会計の相原クラブ4役のみなさんです。

(記事にするにあたり、内容を再構成しています。)

Q. 高齢者クラブを作っていこうと思ったきっかけは何ですか？

森田さん：やはりこれから高齢化が進むということが大きな理由ですね。相原クラブの対象者というのは65歳以上です。高齢者の問題を、我々が自らの問題としてどのように捉えていくのか、それが一番大事なところだと思います。高齢者自身の問題を、区に問いかけても区だけではやりきれない。高齢者の問題について、自分自身も高齢者だけど、いろいろ考えてやろうじゃないかということが必要だと思いました。

星さん：相原区全体の高齢化率は約22%です。数字だけ見ると若いように思いますが、相原区は昔から暮らしている地域と区画整理で若い世代がどんどん入ってきている地域があります。以前から暮らしている人の多い地域では、高齢化率は4割を超えています。若い世代がどんどん入ってきている地域に住んでいる人たちからすると、高齢者の問題は身近に感じにくいですね。そのため、相原クラブというものを作らないと、自分たちの問題として解決できないなあ…と思いました。

森田さん：相原クラブ発足時に発行した相原クラブニュースでは、みなさんへのアンケート欄を入れました。みなさんがどういう問題を抱えているのかということを中心に、悩みややりたいこと、不安も含めてみんなで解決していく方向性を見出したいねということでした。

星さん：今後、国の社会保障というのはどんどん後退してきてしまうと思います。財政問題もあるので行政が行うとしても、どうしてもやりきれないところもあると思います。その中で地域に高齢者クラブがあるのとないのとでは、問題の捉え方や地域への働きかけ方も違ってきますよね。そういうことから、なんとしてでも高齢者クラブを作らなきゃいけないということになりました。

【相原区について】

人口：634人

世帯数：279世帯

高齢化率：21.77%

(R1.7.1 現在)

位置：JR川越線武蔵高萩駅から北西に位置する。

成立ち

もともとは高萩1区。小畔川を境にして分館活動が2つあり、人口が増えてきたことをきっかけに区として分かれた。日高市の中で最も新しい区。

昔から暮らしている世帯もあれば、新しく越してくる世帯もある。現在も区画整理中の場所があり、転居者も多い。

他の場所から越してくる人も多いため、相原クラブのみなさんは、昔からの風習みたいなものがあまり無いと感じているとのこと。



Q. 相原クラブが結成される前から、何か前身となるような活動があったのでしょうか。

森田さん：何も無い所から始めました。当時、星さんが民生委員をされていて、地域の高齢者に対して地域としてどう取り組むかということになりました。そこで発起人を何人か集めて、1年くらい会のあり方や規約などいろいろ含めて検討して発足しました。

星さん：発足時には28名の呼びかけ人も集まってくれました。高萩地域包括支援センターとも相談をして、何かあれば協力を取れるように話しを進めました。



Q. 区内での交流はどのようなものがありますか？

森田さん：1月には餅つきを開催しています。

波形さん：餅つきは高萩1区のことからの交流で、40年くらい続いていますね。

佐藤さん：生田目さんがおいしい作り方を調べてきたりして、工夫して続けています。

星さん：前は大人が中心でしたが、今は子どもを中心に、昔とは内容も変わってきています。相原区は子ども会も今50数名いるので、子どもがちゃんと集まってくれば、親も集まります。前はお酒も出ていましたよ。

生田目さん：私が区長になった時に1度お酒を復活させましたけど、また出されなくなっちゃいましたね。

波形さん：他の行事としては新年会がありましたね。いまは望年会になっていますが。

生田目さん：今は1つだけになってしまいましたが、前はソフトボールチームが男女あわせて3つありました。今のチームは相原区だけではなく、周辺地域の人も集まってチームを作っています。

佐藤さん：私はこの地域に越してきた時、地域の人をあまりよく知りませんでした。生田目さんのことは知っていました。当時ソフトボールチームは公園などでも活動していたので、よく見かけました。また、駅の近くの空き地での盆踊り大会をしていた時の中心人物もソフトボールチームに参加していた人たちでした。そうした人たちが区の役員などにも入ってきて、活動の基礎になっていたように思います。

波形さん：そうして地域で活動していた人たちが、相原クラブを結成するときにも協力、参加してくれました。

佐藤さん：今年相原クラブは3年目ですが、区と一緒に活動も活発にしている、区のイベントにも相原クラブは無くてはならない存在になっています。そのような流れがあったので、私の印象としてはソフトボールといった地域での活動も、相原クラブの発足とつながりがあるように思いますね。

生田目さん：昔はソフトボール以外の、他の楽しみがあまり無かったですよ。お酒くらいでしようかねー。でも飲まない人もいます。それなので、スポーツのような、集まって楽しむ人の繋がりがあり、広がりができました。

話しをしたり何かを頼んだり、繋がりが知り知っている人だと、「ちょっと頼むよ」ということが言える。気心がわかっているので、何かやろうとした時にも協力しやすいです。

星さん：区で何か活動をしようとしても、分からない事も多いですよ。そういう時には、先輩に聞いたり、森田さんに聞いたりしてきました。森田さんは昔からこの地域にいるから良く知っているの、わからないことは地域の人に聞いてきたので活動もやりやすかったですね。

